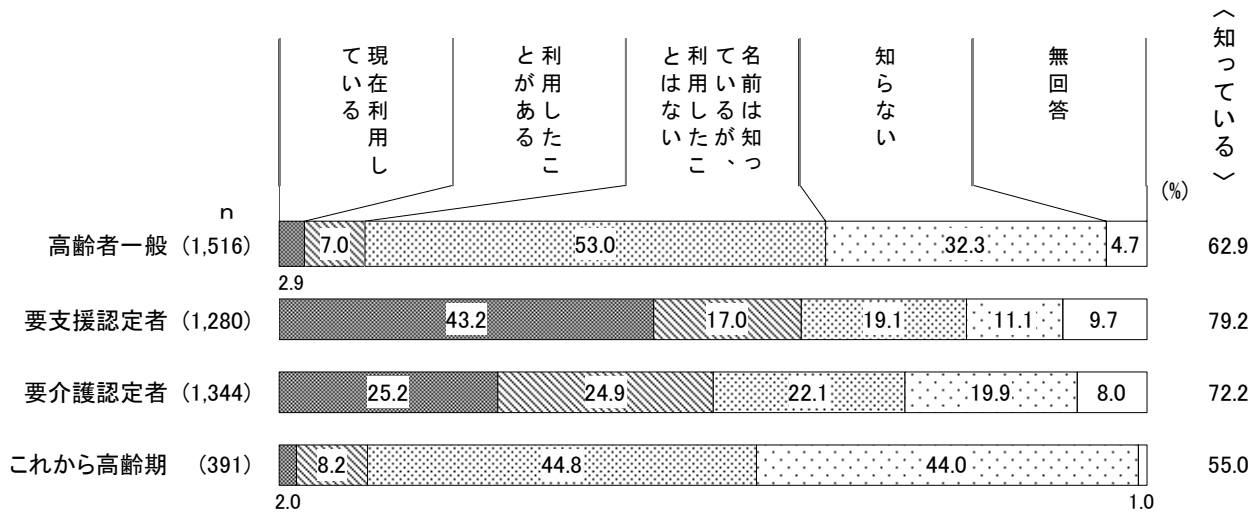


## 8. 地域包括支援センター

### (1) 地域包括支援センターの認知度

○ “知っている”（「現在利用している」、「利用したことがある」、「名前を知っているが、利用したことはない」の合計）は、高齢者一般で62.9%、要支援認定者で79.2%、要介護認定者で72.2%、これから高齢期で55.0%となっている。

○いずれの調査でも“知っている”が「知らない」を上回っている。



### [ 性・年代別 / 高齢者一般 ]

○性・年代別にみると、『女性』は、“知っている”が『男性』と比べて高くなっている。

	n	現在利用している	利用したことがある	名前を知っているが、利用したことはない	知らない	無回答	知っている (%)
高齢者一般	1,516	2.9	7.0	53.0	32.3	4.7	62.9
男性 / 前期高齢者	307	1.0	2.6	47.2	47.6	1.6	50.8
男性 / 後期高齢者	332	1.5	6.0	47.3	39.8	5.4	54.8
女性 / 前期高齢者	335	3.0	10.4	56.7	26.6	3.3	70.1
女性 / 後期高齢者	511	5.1	8.0	57.3	22.7	6.8	70.5

## [ 経年比較 / 高齢者一般 ]

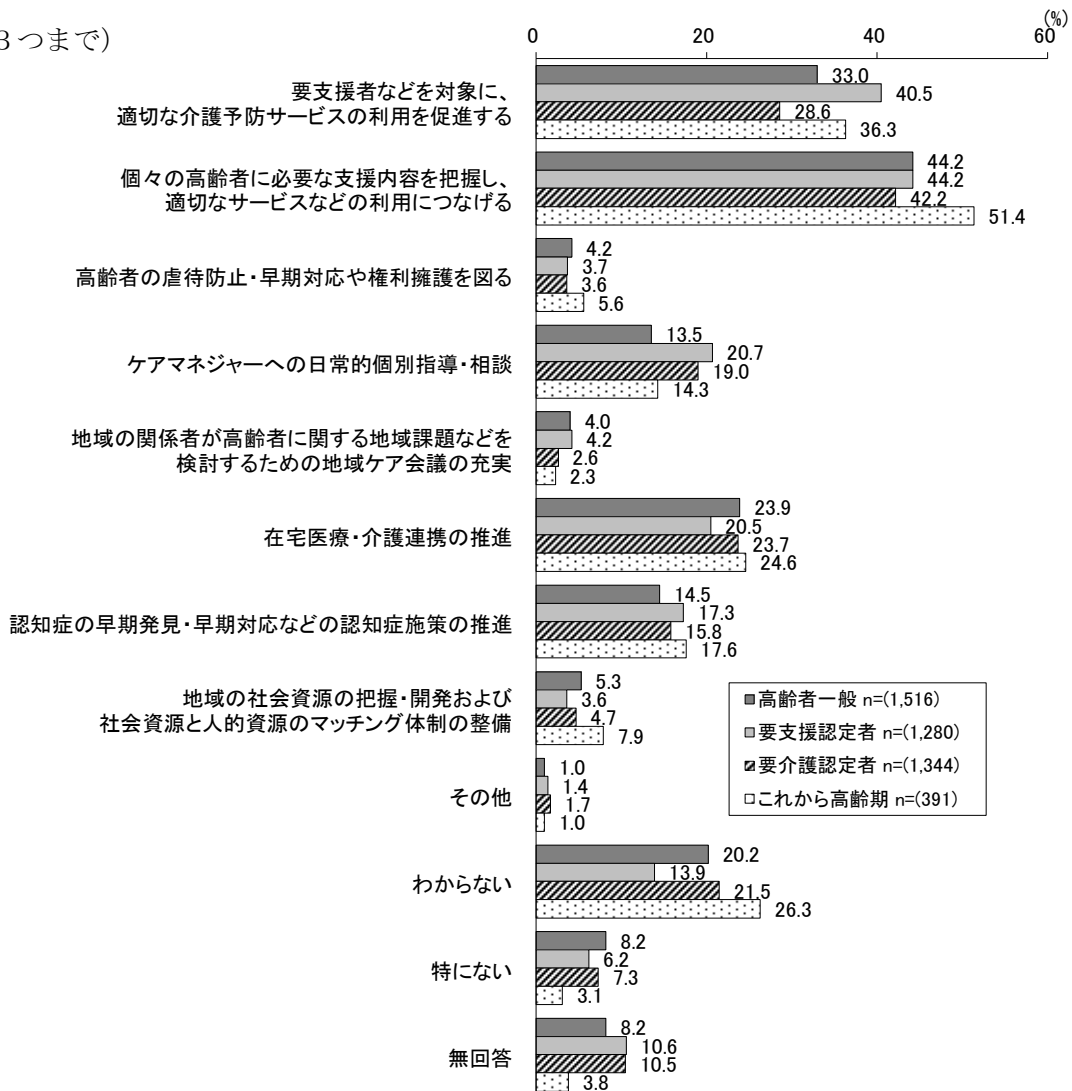
○令和元年度の調査結果と比較すると、令和4年度の調査結果は、“知っている”が11.5ポイント高くなっている。

	n	現在利用している	利用したことがある	名前前は知っているが、利用しなかった	知らない	無回答	知っている
令和4年度	1,516	2.9	7.0	53.0	32.3	4.7	62.9
令和元年度	1,447	3.0	7.5	41.0	33.7	14.9	51.4

## (2) 地域包括支援センターに期待する役割

○いずれの調査でも「個々の高齢者に必要な支援内容を把握し、適切なサービスなどの利用につなげる」が最も高く、次いで「要支援者などを対象に、適切な介護予防サービスの利用を促進する」の順となっている。

(○は3つまで)

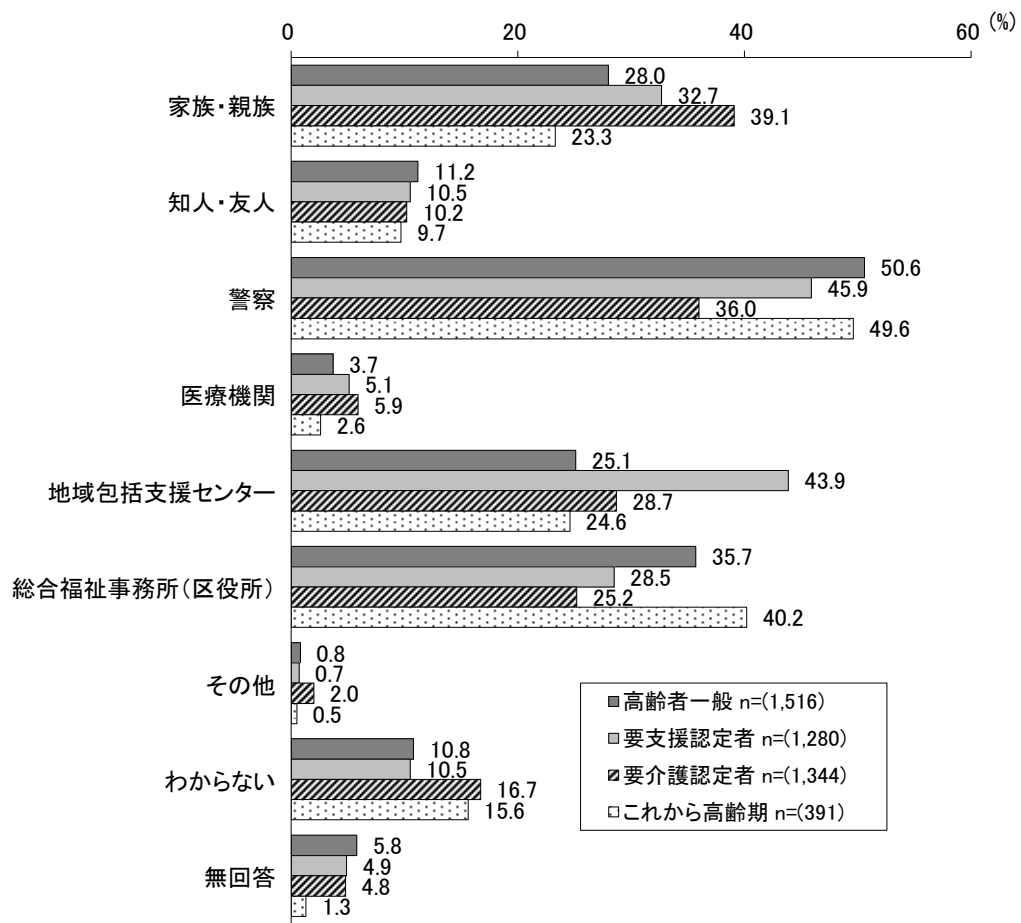


### (3) 高齢者の虐待

#### ① 高齢者虐待の相談先

- 高齢者一般では、「警察」(50.6%)が最も高く、次いで「総合福祉事務所(区役所)」(35.7%)の順となっている。
- 要支援認定者では、「警察」(45.9%)が最も高く、次いで「地域包括支援センター」(43.9%)の順となっている。
- 要介護認定者では、「家族・親族」(39.1%)が最も高く、次いで「警察」(36.0%)、「地域包括支援センター」(28.7%)の順となっている。
- これから高齢期では、「警察」(49.6%)が最も高く、次いで「総合福祉事務所(区役所)」(40.2%)の順となっている。

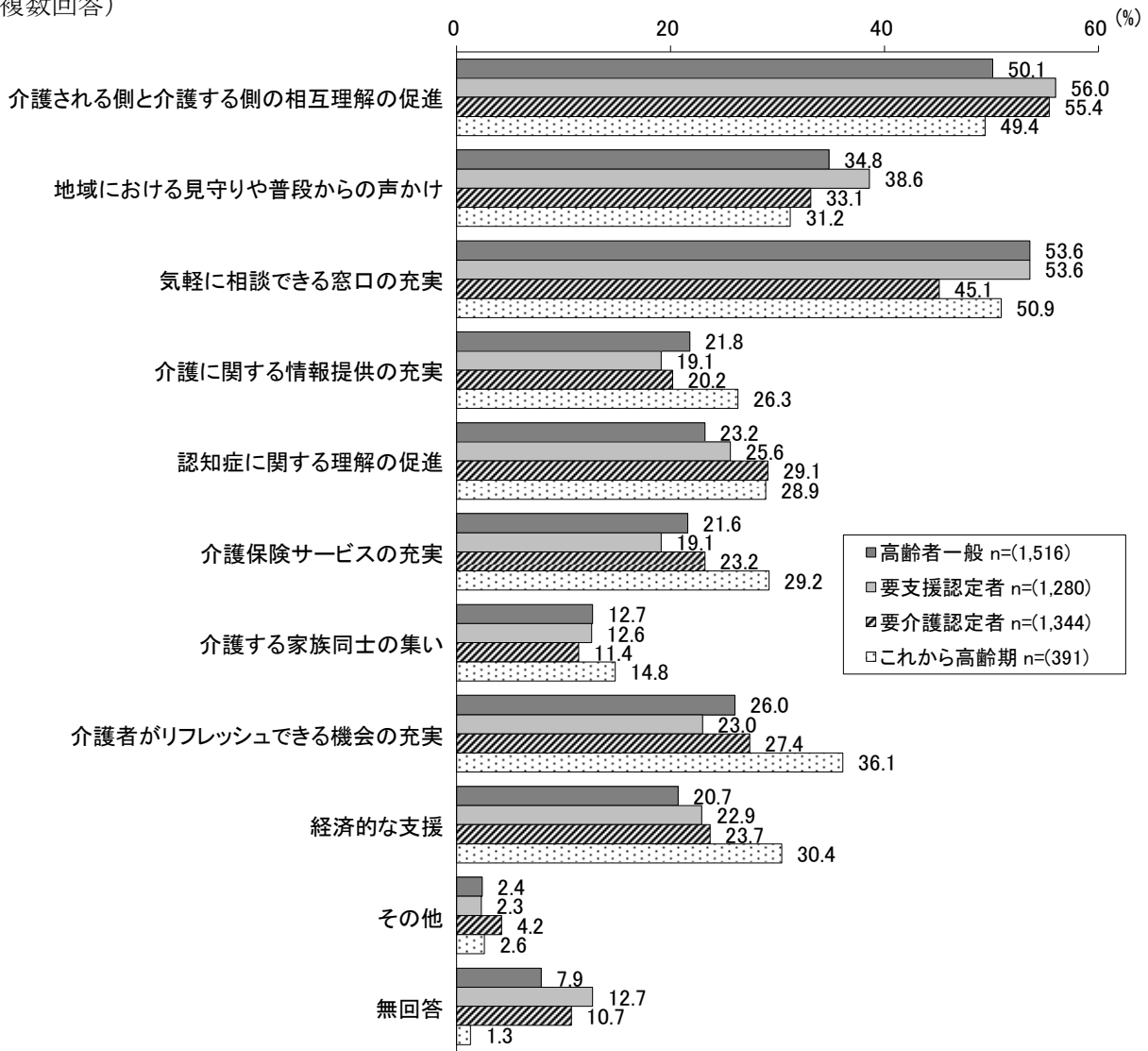
(複数回答)



## ②高齢者虐待を防止するために必要なこと

- 高齢者一般では、「気軽に相談できる窓口の充実」(53.6%)が最も高く、次いで「介護される側と介護する側の相互理解の促進」(50.1%)、「地域における見守りや普段からの声かけ」(34.8%)の順となっている。
- 要支援認定者では、「介護される側と介護する側の相互理解の促進」(56.0%)が最も高く、次いで「気軽に相談できる窓口の充実」(53.6%)の順となっている。
- 要介護認定者では、「介護される側と介護する側の相互理解の促進」(55.4%)が最も高く、次いで「気軽に相談できる窓口の充実」(45.1%)、「地域における見守りや普段からの声かけ」(33.1%)の順となっている。
- これから高齢期では、「気軽に相談できる窓口の充実」(50.9%)が最も高く、次いで「介護される側と介護する側の相互理解の促進」(49.4%)、「介護者がリフレッシュできる機会の充実」(36.1%)の順となっている。

(複数回答)



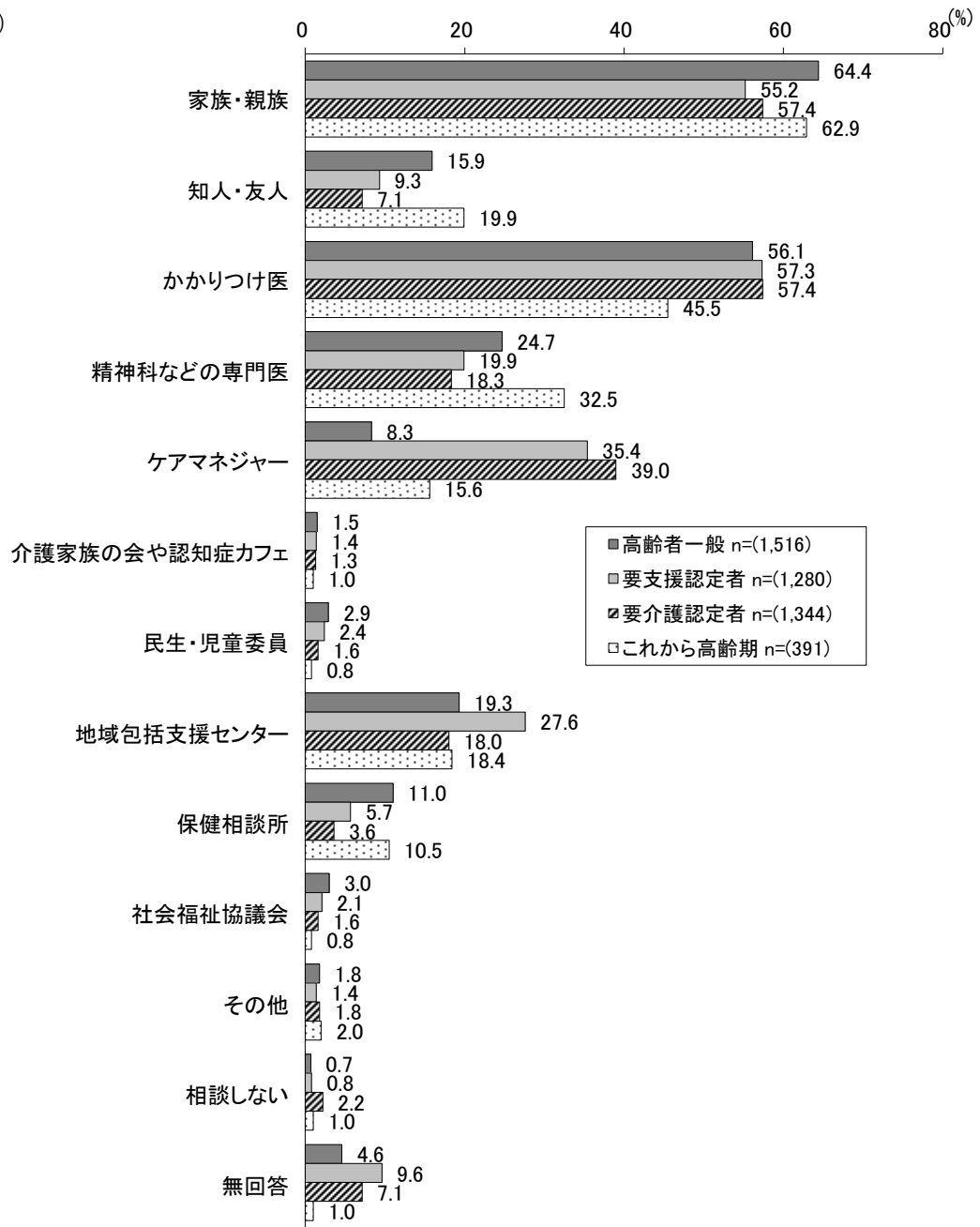
#### (4) 認知症

##### ①認知症ではないかと感じたときの相談先

○いずれの調査でも「家族・親族」、「かかりつけ医」が上位に挙がっている。

○要支援認定者、要介護認定者では、「ケアマネジャー」が、それぞれ35.4%、39.0%と他の調査と比べて高くなっている。

(複数回答)

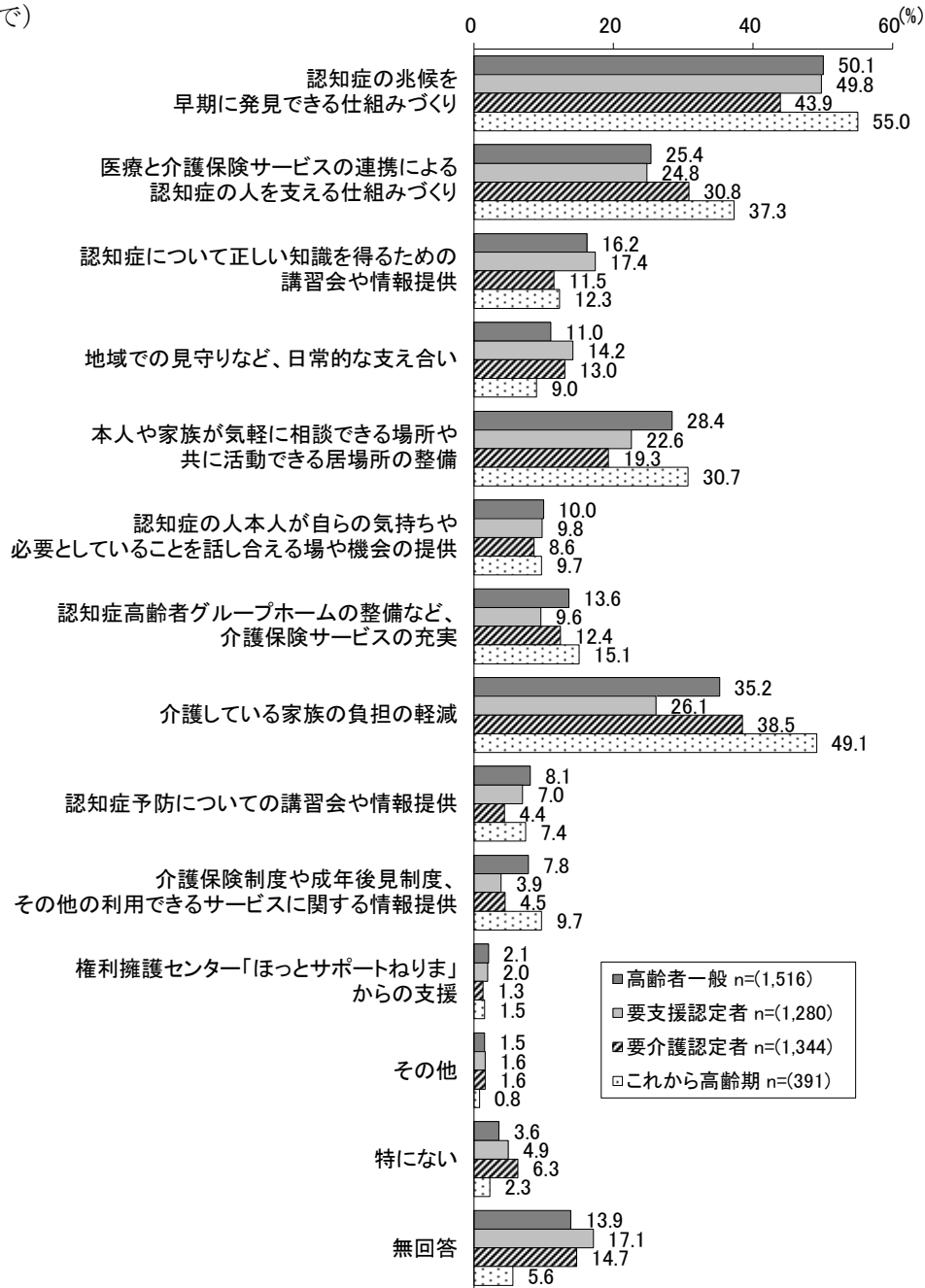


## ②認知症施策で必要なこと

○いずれの調査でも「認知症の兆候を早期に発見できる仕組みづくり」が最も高く、次いで「介護している家族の負担の軽減」の順となっている。

○これから高齢期では、「介護している家族の負担の軽減」が49.1%と他の調査と比べて高くなっている。

(○は3つまで)



### ③認知症の早期発見の仕組み

- 高齢者一般では、「気軽に相談できる窓口」(59.6%)が最も高く、次いで「受診できる医療機関の情報」(58.6%)、「簡単に認知症の兆候を確認できるチェックシートなどの配布」(43.0%)の順となっている。
- これから高齢期では、「受診できる医療機関の情報」(63.9%)が最も高く、次いで「気軽に相談できる窓口」(61.4%)、「認知症の診断に関する受診費用の助成」(46.8%)の順となっている。

(複数回答)

